

赤水の地図、教科書に

高萩・松岡中、授業で解説

高萩市出身の地理学者、長久保赤水（1777～1801年）が作成した日本地図やその功績が、本年度初めて中学校の教科書に掲載された。伊能忠敬が測量して作った「伊能図」より約40年早く完成し、江戸時代の庶民が頼りにしたことが記載されている。同市の関係者は、赤水に関する全国的な顕彰の広がりを見込んでいる。



赤水図の原寸大レプリカを使って行われた
社会科の授業。高萩市下手綱の松岡中学校

全国的な顕彰広がり期待

赤水が完成した「改正日本輿地路程全図」（赤水図）について掲載したのは、地理教育図書で知られる帝國書院（東京）の地図帳「中学校社会科地図」。日本の歴史遺産を紹介するページで、地図の歴史をひもとく一節に載った。

本年度から実施される中学の新学期指導要領に基づき、内容が改訂された。同社の担当者は「古地図の歴史を追う中で赤水図は重要なポイント。伊能図より前に完成したということ、以前から取り上げたいと考えていた」と話す。

同社によると、同教科書は全国の中学校の9割以上で使われている。長久保赤水顕彰会の佐川春久会長は「一人でも多くの国民に赤水のこ



「中学校社会科地図」に掲載された
赤水図。高萩市下手綱の松岡中学校

とを知ってほしい。中学生が勉強するのはうれしい限り」と喜び、「他の教科書にも載るなど波及効果が出れば」と期待する。赤水図を全国の教育現場で活用してもらつたため、原寸大レプリカを販売する手はずを整えるという。

同市立松岡中学校（高萩市下手綱、飯沼幸則校長）では今月15日、1年生の教室で社会科の授業があり、同教科書の該当部分を取り上げた。

渡辺浩実教諭は赤水図の原寸大レプリカを使いながら「緯線経線が入っている。多くの人が便利に活用したといわれている」と地図の特徴を説明。「郷土の偉人である赤水さんが、歴史の中で価値を見いだされている。業績をさらに勉強してほしい」と生徒たちに語り掛けた。

授業を受けた斉藤考汰さん（12）は「高萩の人が教科書に載ったのはうれしい。赤水さんのことをもっと知っていきたい」と話していた。

顕彰会によると、本年度は同教科書のほか、学研の参考書「ニューコース中学歴史」にも赤水が完成させた日本地図と世界地図が掲載されている。

赤水は、先人による地図や地誌、官製の国絵図など多くの資料を基に編集。自身の体験や多くの旅人、知人の話も参考に、20年以上の歳月をかけ赤水図を作成した。伊能図は江戸幕府の秘図とされたため、多くの庶民が赤水図を幅広く活用した。赤水の関係資料693点は昨年、国の重要文化財（重文）に指定されている。

（小原瑛平）